

機巢

同窓会報メールマガジン

Vol. 10 夏号

岐阜工業高等専門学校 機械工学科 機巢会

目 次

P-2	目次 & 会長挨拶	中野 廣幸	(4期生)
P-3	機械工学科の現状について	機械工学科 教授 山田 実	(24期生)
P-4	クラブ紹介 卓球部	機械工学科 教授 小栗 久和	(13期生)
P-5	岐阜高専を卒業して思う事	中尾 賢治	(15期生)
P-6		太田哲也	(6期生)
P-7		山田 実	(24期生)
P-8	MRJの製造開発にかかわる岐阜高専卒業生	伊藤友裕	(33期生)
P-9	学年学科を超えた交流会 FB&ゴルフ	太田哲也	(6期生)
P-10	機楽会&機関誌の今後の在り方	編集委員 犬飼宏好	(8期生)
P-11	若鮎会公開講座 「いじめ問題を考える」	岐阜大学大学院 教授 橋本 治	(7期生)
P-12	編集後記		

会長挨拶

中野 廣幸

今年の夏は記録的な猛暑ですが、皆さんお変わりないでしょうか？またその前には大変な豪雨、水害があり、被害にあわれた皆様に謹んでお見舞い申し上げます、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

私はこの猛暑の中、最近岩波書店から出版された『高専教育の発見』矢野眞和他編という本を読みまし、帯に「今や、国際語になった“KOSEN”」とあり、2009年に発表されたOECD専門家チームによるレビューの中で、日本の高等教育全体には厳しい評価を下す一方、高専だけが高く評価されたことに対して、各方面から分析した書籍です。

この本の‘はじめに’では次のように言っています。…日本の高等教育の評価は内外ともに芳しくない。学生はあまり勉強しないし教師も教育に熱心でなく、教えている内容は実社会で役にたたない。…とあるように、大学教育の空洞化が日本の大きな社会問題の一つになっています。

では、高専教育は他の高等教育機関とどこが違うのでしょうか。その一つは、「教育機関として学生自身の中に、どんな“物差し”を作るか」ということではないでしょうか。人はそれぞれ自分の中に自分をはかる“物差し”を持っています。そしてその“物差し”の目盛を目安にして、自分自身を向上させ、作り上げていきます。“物差し”の目盛は価値観であり、行動指針でもあります。人は成人する直前の多感な15歳から20歳にかけて、自分の“物差し”を完成させます。

一般的な日本の高等教育での“物差し”は、試験にいかにか正しく回答するかであり、試験の得点が、そのまま“物差し”の目盛になっています。従って一般的な、日本の高等教育機関の学生、生徒は試験の結果を良くするために勉強します。しかし、高専での5年間に培われる“物差し”はそれとは異なり、自分の出したアウトプットがいかにか有効に機能するかを“物差し”としています。具体的には、試験の点数よりも自分の作った機構、構造物、システムなどが、いかにうまく働か、機能するかを、自分の“物差し”で評価します。高専生はアウトプットを有効に機能させるために必要な勉強するのであり、試験のための勉強をするものではありません。

この“物差し”はその人のものとして、一生残ります。そして高専卒業生は社会のあらゆる場面で、自分のアウトプット（機構、構造物、システム）が、有効に機能するように努力を重ねています。このような“物差し”を学生に刻み付ける教育システムであるKOSENが世界から評価されるのも当然だと言えましょう。



機械工学科の現状について

機械工学科 山田実

今年の夏はこれまでにない暑さで猛暑日が続いていますが, そんな暑い中8月4日(土)に本校でオープンキャンパスが, 8月5日(日)に機械工学科公開講座が開催されましたのでその紹介をいたします。

【オープンキャンパス】

オープンキャンパス(以前は高専見学会と呼ばれていました)は中学生やその保護者に岐阜高専を知っていただくため毎年夏休みころ学校を挙げて開催しているイベントです。今年は1200名近い来場者があったそうです。機械工学科でも学科紹介するために機械工学科棟のいくつかの部屋で展示や実演を行ないました。

- 共同利用スペース : 機械工学科の概要, 進路紹介, 教科書・卒論展示, 3Dプリンター実演
- 5年生教室 : 各研究室の紹介ブース
- 2階コモンスペース : ミニ四駆で知る機械工学
- 3階デザインラボ : 設計製図教育・創生工学実習の紹介
- 材料力学実験室 : 材料引張り試験
- 機械工学科棟南 : ロケット水平発射
- 実習工場 : 工場実習の紹介

教員も説明しますが, 主たる説明は5年生および4年生の一部が行ないました。学生が説明をすることで来場者はリアルな学校生活の話を聞くことができました。例えば寮での生活や留年のこと, クラブのこと, 普通高校との違いなどです。なお, 親となった岐阜高専OBも多数来場されました。



【公開講座】

機械工学科では小中学生を対象に工作教室などの公開講座を開催しています。最近8年ほどは「きのくにロボコン岐阜予選会」として参加者を募集しています。これは和歌山県が12月に行なっているきのくにロボットフェスティバルの中で本選が行なわれる全日本小中学生ロボット選手権における岐阜での予選会です。今年は小学生の部に23名, 中学生の部に15名の参加がありました。8月5日に行なわれた組み立て講習会に参加した小中学生は競技課題に沿ったロボットを製作して10月21日の予選会に臨みます。この公開講座への参加者の内, 何人かは岐阜高専に入学しています。

小学生部門はタミヤの6足歩行ロボットを操縦して草むらに見立てたいくつかの障害物をこえ3センチ角のキューブをゴールまで運ぶという競技です。キットそのままでは上手く運べないため, キューブを運ぶためのバンパをどのように作るかがミソになっています。

中学生部門は8センチ角のやわらかいサイコロ6個を台の上に運び, サイコロの目の合計点数を競います。コントローラーのみ共通でロボットはすべて自分で考えて作ります。

なお, 公開講座の開催にあたり, 競技フィールドの一部とスタッフのお弁当を機巢会から援助していただいています。この場でお礼申し上げます。



クラブ紹介 卓球部

機械工学科 小栗 久和

華々しい試合を展開する野球場のバックネット裏に、卓球部の練習場があります。かつてバレーボール部の練習場であった安藤記念館です。この建物、雨が降ると激しく雨漏りがする欠陥がありました。建物の中で傘をさした経験は、この安藤記念館だけです。現在は改修され、雨漏りは無くなりましたが、構造上、雀・鳩がよく入り込み、卓球台に糞を投下されています。そんな場所で練習する卓球部の顧問を20年間務めています。

さて、女子学生が少ない本校で、どちらかと言えばマイナーなクラブである卓球部ですが、ここ二十数年、何故か定期的に女子強豪選手が入部して、次のような目覚ましい活躍を続けています。（平成9年～30年の記録 平成30年の全国大会を除く）

【東海地区高専体育大会】

団体優勝	男子3回	女子11回
シングルス優勝	男子8回	女子10回
ダブルス優勝	男子6回	女子12回

【全国高専体育大会】

シングルス2位	男子0回	女子1回
シングルス3位	男子0回	女子2回
ダブルス3位	男子1回	女子3回

全国的に見て、東海地区の高専卓球部の実力は低く、全国での入賞は難しいものがありますが、よく健闘しています。また、昨年度（平成29年）は、岐阜県高校総体（インターハイ予選）女子団体の部において、県3位の成績を収めました。団体女子競技での県3位入賞は、本校始まって以来ではないかと思います。学校で話題になるかも・・・、と思ったのですが、極一部の先生から「すごいね」と言われたただけでした。良い意味でも悪い意味でも、これが高専かな？今年も頑張りましたが、県ベスト8でした。（それでもすごいと思う・・・）

卓球部OBの皆さんには怒られてしまうかも知れませんが、2つ伝統が崩れてしまいました。

その1：高専祭のバザーが「お好み焼き」から「豚汁」になってしまったこと

その2：練習終了後「ファイトー・ゼ・オ・ゼ・オ・ゼ・オー」がなくなってしまったこと



平成29年の高専祭バザー 卓球部「豚汁」(^_^;

岐阜高専を卒業して思うこと

中尾 賢治（15 期生）

新生「機楽会」の機関誌（メールマガジン）である機楽も第 10 号を迎えた。これまで発刊した機楽では、数人の企業家（起業家）卒業生に対して、卒業してから会社を軌道に乗せるまでの苦労話や高専時代の良かったことなどを語ってもらった。今回は、不肖ながら私 15 期生の入学そして卒業後の想いを同級生のコメントを交えながら紹介させていただきたいと思う。

私は中学時代から技術という科目が好きだったことと父親の自営業（鉄工所経営）の影響を受けて、早くから機械・電気関係に進みたいと思っていた。自宅が高専から近かったことも高専進学の一因だとは思うが、5 年間、自転車通学できたのは親に負担をかけず幸いだった。15 期の同級生数人にアンケートを取ったが、高専機械工学科入学の動機は私も皆もほぼ同じで以下のようなものだった。

- 子供の頃から、機械いじりが好きだった
- 機械工学科しか合格できそうにない、電気はレベルが高く避けた
- 土木、建築は興味が無かった
- 大学受験を避けたかった、高校で受験勉強をしたくないから
- 経済的な理由、大学に行くお金が家に無かったから
- 早く就職したいから
- 国立であるため
- 高専という普通高校にはない特殊なカラーと環境の中に入ってみたかった
- 学力レベルの高い学校であったため。
- 寮生活ができることにも魅力を感じた
- 早く就職（世に出たい）できると思った
- 親の勧め
- 父が機械系技術者のため
- バイクに乗りたいたから

ここで最後に出てきた入学動機「バイクに乗りたいたから」であるが、ほとんどの場合は入学してみたら分かったことであつたと思う。当時、高校は三無運動なるくだらない？決まりがあつたようであり、高専だけが許可を受けて小型自動二輪まで取得していた。個人的にも、バイク免許の取得許可書をいただけた 1 年生の担任：川本先生には感謝である。持論ではあるが、バイクこそ高専の目的の一つ「実践的技術者の育成」の一助になっていたはずである。実際に寮や自宅では、皆、自分でバイクの分解整備をやっていた。機械工学科のメンバーにとっては、バイクは移動手段以外に、メカへの知識を深める絶好のツールであつたと今も確信している。

バイク好きが高じての脱線話がある。もう時効になったが、当時は結構めっちゃくちゃやっていた。高専に近い我が家の庭が、同級生の無断通学用バイクの置き場所になっていたのである。話が飛躍して理解できないかもしれないので少し解説すると、我が家は廃線になった名鉄揖斐線の尻毛駅に近く、一宮や羽島の同級生が自宅から我が家にバイクでやってきて駐輪する、それから尻毛駅に向かい電車で高専に行く、という具合である。ある朝、自宅の外がやかましいので出てみると、全く口の利いた事のない電気科や土木科の連中のバイクまで置いてあつたというのにはさすがに驚いた。ただ、バイク事故が多かつたのも事実である。かくいう私は、3 年前に交差点で骨折事故を起こし入院した。同窓生の方々には十分注意して運転されたし。

さて、高専時代全般は、自由だ、自由だ、一夜漬けで十分だ、と先輩たちに吹き込まれ、今と違って（？）、勉強はあまりしなかつた。受験勉強せずに大学へ行った一人であるためか、そのつけ

が会社員になってから回ってきた。仕事で必要になってもアカデミックなことは全く思い出せないでいる。仕方が無いから、KKD（勘、経験、度胸）でカバーしているが、結構、これが実社会では役に立つと感じている。浮いていると言われるかもしれないが、他人と同じである必要はないと信じているので、常にアンテナを張って新しい情報を取り込み、今も好奇心 200%で活動している。

少し会社生活へ話題が逸れたので、高専関係に話を戻すが、高専の勉学で一番の思い出は「茶運び人形」の製作である。名古屋から有名からくり人形作家の玉屋庄兵衛さんが非常勤講師として招かれ、半年以上かけて数台のからくり人形を完成させたものである。傍からみると職人修行のようなどころもあるが、実践的技術者にとって、実際に手を動かしてモノを作ることができるということは非常に重要ではないかと考えている。このことは、ノーベル賞を取られた青色 LED 発明者の中村修二さんも同様なお考えのようで、ガス溶接によるガラス細工で実験装置を作る技能が研究にとっても役に立ったと述べられていた。岐阜高専の特別講義「茶運び人形」の製作は、これらのことを見通しておられた当時の校長、古屋先生の計らいだったかと思い出される。豊橋技科大でも、朝から晩までトントンカンカンやっている研究室があり、先生の名を冠して蒔田鉄工所、大竹製作所などと呼ばれていた。今は高専ロボコンなるものがあるので、是非とも在学生にはこれに積極的に関わって欲しいと思っている。

最後に同級生に聞いた高専を出て良かった点、弱点だと感じた点を挙げるので在校生には是非参考にしてもらいたい。

＜高専を卒業して良かった事＞

- ・実務面では大学卒業者と同等の扱いの企業が多い事
- ・5 年間で共に暮らす中での（今で言う）コミュニケーション力が非常に高まった
- ・専門知識（特に設計・図面作成）が役にたった
- ・機械工学科卒業でも、電気・電子・コンピュータ系の会社でも通用すると思えた
- ・高専卒（全国）という絆は強く感じる
- ・5 年間、クラスやクラブで濃厚な付き合いができたこと
- ・就職活動が楽だった
- ・それなりの知識が得られた

＜高専を卒業して弱点だと感じた事＞

- ・就職後、大学卒より給料が少なかった
- ・会社では大卒と扱いが違っていただけ（苦しくても大学に行けばよかったと後悔している）
- ・大卒に比べ、会社での昇進昇格が遅れる
- ・実務に縛られる為、部長以上の役職に付けてもらえない
- ・周りに有名大学卒が多く、高専卒が低く見られた
- ・所詮学歴社会で、卒業校で仕事が決まるところをいくつも見てきた
- ・あほな大学でも高専より上と判断する会社がいくつもある
- ・女子が少ない

諸先輩のがんばりがあっても、まだまだ大卒優位なようである。我々がゆるがない実績を作るしかないであろう。

岐阜高専を卒業して思うこと （2）

太田哲也（6 期生）

卒業して 45 年が経ちました。全く異業種の職に就いたので、技術的に役に立ったとか深く勉強・研究したとかはありません。ただ、5 年間機械工学を学んだので考え方は理系かと思っています。

高専を受験したのは親と先生に勧められ、機械工学科は将来の進むべき道が広いからと思って選びました。皆さんも多分同じような状況だと思います。卒業時、「親に対する責任は果たした」と

思い、就職をせず法律関係の大学に行こうとしましたが、挫折（受験に失敗）して保険業界に入り現在保険代理店を営んでいます。結局大学に行かなくても法律や経済を自然に学び、高専で学んだことを生かし保険の仕事を天職だと思えるようになりました。

私が始めた頃は、保険会社は一流大学を出た優秀な人が多く、インフラも整備された一流会社ですが、商品である保険を販売している人は大半が兼業であり専門的な保険知識のない人が扱っていました。ごく一部プロ集団がいる面白い業界でした。少し頑張ればすぐに目立ってしまう状況でした。保険の内容を理系の頭で説明すると相手は納得してくれるので営業活動は楽でした。古い習慣を改善し、理論的に保険を販売することが面白くなりました。最近は脱サラ組の優秀な人が専門職化していて保険会社の社員に負けない優秀な働きをしています。

私は岐阜市内を中心に活動していますので「岐阜高専卒業」と分かれると崇められます。そんな時「変な大学を出なくて良かった。」と思います。実力の社会で生きています。

5年で卒業しましたので、20歳の時5年毎に人生設計をしました。25歳でやりたい仕事を決め結婚、30歳で独立し40歳で家を持つ・・・50歳で引退して老後はのんびり世界中を旅する、でした。現実とはそうではなく65歳の今も仕事を続けています。人生予定通りに行きませんが「終わり良ければすべて良し」だと思います。今の人生に満足しています。

還暦の時に20歳からの40年間をもう一度繰り返すとちょうど100歳。まだまだ若い。体力は少し落ちたがゆとりと知恵がある。人生はこれからだと前向きに生き、25歳と思って趣味のゴルフと旅行を楽しんでいます。

私にとって岐阜高専は勉強をするところではなく、友達を作り生き方を考えさせてくれた場所でした。また同窓会の事業にかかわることが出来て良かったです。これからもできる限り機楽会を盛り上げていきたいと思います。

岐阜高専を卒業して思うこと （3）

山田実（24期生）

高専5年間は大学受験に追われることなく自分の好きなことに打ち込めたということで高専には感謝しています。在学中、成績は気にせず（成績を取ることが目的ではなかったため、成績評価はみたことはありませんでした。）自分の知りたいことを勉強することができました。例えば、歴史が好きだったため毎日歴史の本を読んだり、授業でプログラミングを習ってからはいろいろなプログラムを作ったりしていました。そして、コンピュータで機械を操ることに興味を持つようになり、金属材料学の橋浦先生の研究室に入りながらも、ティーチングロボットのシミュレーションを題材に第1回の高専プログラミングコンテストに出場し、卒業研究は卓上旋盤の回転数制御をテーマにしていました。橋浦先生が情報処理に関心を持たれており、当時TK-85というワンボードマイコンを授業で教えてくれたのも影響がありました。

このようなこともあって、大学は開設されて3年目の知識情報工学課程があった豊橋技術科学大学へ進みました。そして、情報処理を制御工学に応用する研究室に入り、そこで学んだことが岐阜高専の教員となった今でも続いています。漠然とものづくりが好きで入った高専で将来やりたいことが見つかったことは幸いだったかもしれません。これも、自由な校風で自分の好きなことができる環境にあったからだと思います。

今年度は機械工学科で就職担当をしています。学生が就職面接を受けると必ず聞かれる質問があります。「学生生活でがんばったことはなんですか？」、「どんな仕事をしたいですか？」低学年の学生にはこの質問に答えられるようにと話しています。面接官の前では答えられない些細なことでもなにかしら打ち込んだこと、やってみたいことがあると思いますし、がんばっている学生が多いことにも日々感心しています。そして学生には一生の財産になるなにかを良きにつけ悪しきにつけある意味特殊な環境である高専で見つけて欲しいですし、それができるのも高専というところだと思います。

MRJ の製造開発にかかわる岐阜高専卒業生！

33 期生 伊藤 友裕

メルマガ編集委員会にて、高専 OB の紹介とともに、携わっている製品も記事にしてみようという企画が生まれました。今回は私が働いている航空機産業とそこで働く高専 OB のお話です。



©三菱航空機(株)

皆さんご存知の通り東海地方は航空機(ジェット機)産業で盛り上がっています。(ちなみに国産 H-IIA ロケットも東海地方で作っています。)世界の航空機需要は今後数倍になると見込まれているなど、産業として大きな成長が期待できる状況です。

そんな中で、国産ジェット旅客機「MRJ(三菱リージョナルジェット)」の開発・生産に加え、大型旅客機の機体・エンジンの主要部品の生産が、われら岐阜高専のあるこの東海地方に集約されているのです。広範にわたる技術分野と他産業への波及効果から、航空機産業は重要な産業として位置付けられ、県や自治体で助成

制度や支援の場が設けられるなど、官民あげて取り組みがなされていたりします。

難しいけれど、市場は成長が見込まれており、みんなからも期待されている産業ということですね。

航空機産業で働く高専 OB はいろいろな仕事についています。生産技術はものを加工する工程を考えたり技術開発をしたり。品質保証は寸法や冶金の検査方法やそれらを保証する品質管理体制を考えたり。生産管理では海外外注メーカーまで含めた工程を管理したり、生産計画の最適化をしたり。設計部門で形を考えている人もいれば、開発部門で色々な試験をしている人もいます。

機械工学科出身でもいろいろな分野で活躍しているというのが実情です。実習から座学まで高いレベルで広く学ぶということを経験するから、就職してからいろいろな分野で活躍できるのかもしれません。

私はというと、航空機エンジン部品の設計から始まり、部品の生産プロジェクトとりまとめを経て、今は調達部門で国内外種々メーカーの新規立ち上げを担当しています。

航空機は製品の構成要素が自動車などに比べて非常に多く、しかもそれぞれの設計・製造・品質に対し安全を保証するための厳密な管理が求められます。個人的意見ですが、その製品を作れるかどうかは、それを管理する全体システム(仕組みや組織)を構築し運営できるかどうかにかかっていると思っています。実際、文化の異なる多民族を抱え成り立ってきた欧州や欧米の管理体系やシステムの構築力は、日本とは違ったもので、そして主要な航空機エンジン、機体メーカーは欧州や欧米に存在しています。

世界を相手にしたり、いろいろな技術分野があったり、そんな航空機産業の盛り上げに岐阜高専 OB を始め、一人でも多くの人が興味をもって頂けたら嬉しいなと思う今日この頃です。



©三菱航空機(株)



©三菱航空機(株)

学年学科を超えた交流会 FB&GOLF

7月14日の巴里祭はグローバルゲートで肉肉しい飲み会



左から中尾賢治(15M)
佐藤玲子(9A)
入山要(1A)
岡地宏(12E)
戸本伸(15C)
高田和男(12E)
太田哲也(6M)
高橋邦一(2A)
中野廣幸(4M)
渡邊浩(2A)



今年で6回目の集まりです。12Eの高田和男さんが発起人で7月14日巴里祭に拘って名古屋で開催しています。昨年まではピアガーデンでしたが、名古屋の新しいランドマーク、グローバルゲートで素敵な店を探してくれました。今年の参加者はちょうど10名。機集会中野会長も初参加です。

学科年齢に関係なくFBで知り合った岐阜高専卒業生たち。今の話・昔の話で盛り上がり、1年に一度の楽しい集いでした。遠くは日立市から参加の岡地さん。岡地さんの趣味は広く針金アートが得意です。お店の名前を表記したオリジナルアート(写真)を作ってくれました。テーブル担当の男の子に渡すと、それまで無愛想だったのが急にサービスが良くなりました。

土曜日というのにまだ知れ渡っていないささしまライブ。素敵なお店がいっぱい出来ました。

『E&M ゴルフ交流会』 2018.07.31 14Hill's C.C in 中津川



3期の機械と電気のメンバーで年に3回ゴルフコンペをしています。海拔600mで下界よりは少し涼しいゴルフ場ですが、今年は35度を超える猛暑。皆さん持病を抱えながらも楽しくプレイしました。

毎回、4×4の機械・電気の対抗戦です。ダブルペリアでネットの合計が多い方が負けです。反省会の飲み物代を払います。今回は僅かの差で機械の勝ちでした。

宿泊組は「ビール、日本酒、ワイン、泡盛」たらふく飲んで久しぶりに麻雀して、翌日も元気にラウンドしました。元気な老人たちでした。

後ろ左から向井軸郎、青木健、坂井善幸。前列左から橋本博明、伊藤猛司、三辻重賢、川合公平。6期太田哲也も参加(撮影)

機巢会&機関誌の今後のあり方

編集委員 犬飼宏好（8期生）

機巢会は岐阜高専機械工学科の同窓会であり、会員相互の親睦と向上を図り、機械工学科の発展に資する事を目的としています。現役学生への支援として、高専祭助成、留学支援、資格試験補助などを行い、OBへは同窓会補助、メールマガジン「機巢」の発行など、様々な活動を推進しています。また、イベントとして、平成28年3月に機巢会35周年記念同窓会を開催し、平成29年10月に若鮎会50周年記念事業として記念式典と懇親会の開催、その後の公開講座の運営にも取り組んできました。さらに、若鮎会ホームページにある各科同窓会コーナーの「機巢会」をリニューアルし、機械工学科に関する情報発信をしやすい環境にしました。

機巢会活動は機巢会OBの方々から頂いた会費を原資に運営されています。したがって、活動状況をOBの方々に伝えていく責任があります。現在、機巢会の活動状況はメールマガジン「機巢」の紙面を利用し、事業計画や活動結果を報告しています。しかし、十分に伝わっているかは分かりませんし、意見や質問を頂く事もできません。今後の方向として、2年に一回は機巢会総会を開催し、事業計画や活動状況を丁寧に説明、意見や質問を頂く機会にする一方、懇親会を開催し、学年を越えた交流の場にしたいと考えています。

メールマガジン「機巢」は年4回発行し、機巢会OBへの情報発信を主な目的とし、学校の活動や、イベント情報、同窓会の情報、卒業生の活動など様々な情報を掲載してきました。

【掲載記事の一例】

- ・機械工学科の現状（卒業式、入学式、進学・就職状況、高専祭など）
- ・卒業生からの便り
- ・企業家卒業生インタビュー
- ・機巢会35周年記念合同同窓会、若鮎会50周年式典（式典&パーティ）、公開講座
- ・クラブ紹介（LEGO同好会、吹奏楽部、宇宙工学研究会など） など

これらの情報発信は岐阜高専を卒業し国内外で活躍するOBにとって、母校の現状や卒業生の近況を知るために大いに役立ったと思います。また、機巢会35周年記念合同同窓会、若鮎会50周年式典と公開講座に関して多くの紙面を割いて情報発信した結果、沢山の皆さんが参加され、素晴らしいイベントになりました。

メルマガも10号発行という節目迎え、これまでの流れを継承しつつ幅広く面白く、皆さんが気軽に自身の近況を伝えられるメルマガにしていきたいと考えています。ただし、OBの方々に原稿を依頼すると、「メルマガに掲載できるような立派なことはやっていない」「普段文章を書いていないので、何を書いていいか分からない」という意見をよく聞きます。そこで、インタビュー形式の雛型原稿を作成したり、趣味や旅行、グルメなど身近な事柄も紙面に加えたり、いろいろな工夫をしていきます。

メールマガジン「機巢」は機巢会に集うOBや関係者の憩いの場でありたいと願っています。これからも活気あるメルマガであり続けますよう、皆様のご協力を宜しくお願いします。

若鮎会公開講座のお知らせ 2018.8.25(土)13時
「いじめ問題を考える」 講師：橋本 治（7期生）

岐阜大学大学院 教育学研究科 教授

JR 岐阜駅前 岐阜大学サテライトキャンパス(岐阜スカイウイング37 東棟4階)

次のページにチラシ掲載



若鯔会
WAKAAYUKAI

岐阜工業高等専門学校同窓会[若鯔会]公開講座
伝えたい!時代の挑戦者たちのメッセージ

第1回講座
100名限定
入場無料

いじめには表面だけでは見えてこない本質的な問題があります。
子どもの未来を考える先生・保護者のみなさまへ、
いじめの根絶、解決法のヒントをお話しします。

いじめ問題を考える

いじめ・自殺・発達障害等を通して

2018年 **SAT** 13:00~15:00

8/25

岐阜市吉野町6丁目31番地 岐阜スカイウイング37 東棟4階
JR岐阜駅前 岐阜大学サテライトキャンパス/多目的講義室

2010年10月、群馬県で小学校6年生女子がいじめに関連して自殺をするという痛ましい事件があり、その折、朝日新聞社から取材を受け、「いじめと自殺」について回答しました。このように「いじめ問題」というとき、「自殺」のことがよく報道されますが、実際には「不登校」・「暴力」・「発達障害」などの様々な問題がいじめと関連しています。本講座では、「いじめ問題を考える」というテーマですが、そこから広く子どもたちの発達を含む様々な問題をお話ししたいと考えております。

講師 国立大学法人岐阜大学大学院 教育学研究科 学校心理士 教授 **橋本 治**

プロフィール 専門分野は、いじめ・不登校・暴力・自殺・発達障害などの「教育臨床」。教育相談・生徒指導・学校カウンセリング・いじめ・自殺・発達障害など学校における様々な相談を研究する傍ら、各地でいじめ問題に関する講演活動も精力的に行う「いじめ問題」の専門家。

主な経歴 1974年 国立岐阜工業高等専門学校(機械工学科)卒業。
1978年 都留文科大学文学部(心理学専攻)卒業。
1978年~2008年(30年間) 愛知県の小中学校教諭
2008年 国立岐阜大学大学院 着任(准教授)
2014年 国立岐阜大学大学院 教授 就任

著書...1999年「いじめと自殺の予防教育」/2007年「いじめ問題を見逃さない10のポイント!!」



公開講座 申込み書(FAX用) 送信先FAX058-322-6571

フリガナ	○で囲んで下さい 若鯔会員(専攻科含む) 一般 学生		
お申込者氏名	企業団体名		
連絡先(電話またはメールアドレス)		総お申込み人数	

会場までのアクセス

岐阜大学サテライトキャンパス 検索



WEBからのお申し込み

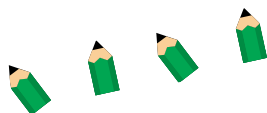
若鯔会 公開講座 検索



※FAXまたはWEBサイトからお申し込みください。

第2回 2018年11月10日(土) [講師] 宇佐美 晃三(大野町長)
第3回 2019年3月(予定) [講師] 鍋島 英知(山梨大学 准教授)

お問い合わせ 〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑223番2 岐阜高専 若鯔会事務局 TEL058-323-8752



編集後記

編集委員

6M 太田哲也



FB 交流会とゴルフの記事は私がレポートしました。真夏の2日連続ラウンドはきついところですが、体力テストだと思っています。OBのゴルフコンペを企画しようと思っています。クラス対抗&個人成績で10組くらいを検討しています。同級生同士で定期的にゴルフを楽しんでいる方はたくさんいるようです。来春ぐらいに予定しますので是非ご参加ください。

8M 犬飼宏好



久しぶりにA4一枚の原稿を書きましたが、なかなか言葉が浮かんでなくて四苦八苦。

今後、同期やOBの方々に原稿を依頼する時は筆が進みやすい題材を選んだり、原稿の雛型を提供したり、工夫したいと思います。皆さん、宜しく！！

15M 中尾賢治



FB 交流会で初めてグローバルゲートに行きました。名古屋なのに東京ミッドタウンのようなところに行った気分になりました。大学の街なのでコストパフォーマンスも良く、お勧めです。

24M 山田 実



OBのみなさまはどんな夏休みの思い出がありますでしょうか？いま岐阜高専は前期期末試験が終わってから大学と同じく8、9月に夏休みがあります。一番暑いときに試験を受けるので大変です。

33M 伊藤友裕



もはやITという言葉も古い感じがするほどに、そっち系の分野は進化しており、それにより人・物・情報のつながり方もすでに大きく変わっています。機巢会のネットワークをどう構築し、どう活用していくことができるか、面白いアイデアに出会いたいところです。

発行日／2018年8月11日

責任者／中野廣幸

発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巢会」編集室
〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343 FAX 058-320-1349

<http://www.gifu-nct.ac.jp/mecha/main/ob/ob.html>